

道連ニュース

2019年12月号 No.161

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

大学生協連設立60周年記念北海道シンポジウム開催報告

10月26日(土)札幌に於いて、「大学生協連設立60周年記念北海道シンポジウム」が開催されましたので報告いたします。

シンポジウムには、会員生協理事長、学生委員長、専務理事、共済担当学生、院生・教職員理事・監事など合計67名が参加し、企画内容は、第1部基調報告「世界と日本の協同組合運動と大学生協への期待」講師、道生協連川原事務局長 第2部は5つの事例報告があり、その後60分のグループ交流とグループ発表もありました。基調報告に対する参加者からの感想は、・初めて知る話が多く大変勉強になりました。生協の理事長として必要なことを改めて考える貴重な機会になりました。・協同組合がどれだけ日本や世界で影響しているのか。そしてどこまで目指しているのを知れた。自

分が思っている以上に大きい影響力があって驚いた。

・福武会長所感。私たちはどれだけその努力をしてきたのだろうか?・大学生協と地域生協の歴史、さらに協同組合連携について非常に熱い想いとともにお話いただき頭と心にしみ入りました・昭和初期の早大学消の消滅、無念の思いを見て胸が熱くなった。敵は「無関心」は肝に命じたいなどでした。以上報告します。



開会挨拶する吉見運営委員長

生活クラブ わくわくまつり

今年は11月3日札幌コンベンションセンターにて、わくわくまつりを開催しました。約3200人の来場者があり、老若男女、家族連れと途切れることなく会場全体が歓喜の声で賑わいました。

いよいよ11時まつりがスタート。オープニングは若手ダンサーたちによるダンスショーです。次に総勢60人の子ども達によるチアダンスや人形劇、ご当地ヒーロー「ソーランドラゴン」の登場で大いに盛り上がりました。組合員による手作り品の店「わくわく市」や支部と生産者による15店舗のふーどまるしえで自慢の生活クラブの消費材を使った美味しい丼やデザート類を提供し長蛇の列ができていました。くらぶまるしえ（消費材販売）とあみーか（展示説明コーナー）には、4支部と32の生産者が軒を連ね自慢の逸品をアピール販売し、いずれも完売続出でした。

今年のまつりのテーマは、「あそびでまなべる生活クラブ」。各ブースで工夫を凝らした楽しい企画を用意しました。あそびコーナーには4支部が集い、会場の真ん中で射的やさかな釣り、でんきづくりの実験、

紙芝居等々趣向を凝らした企画でちびっこたちが楽しみました。またバルーンアートのシンボルツリーをコーナーの真ん中に置くなど今年のまつりの象徴としてアピールしました。木のおもちゃや木工作り、くるとわかるコーナーでの「これで君も生活クラブマスターだ!」のクイズラリーでは子ども達の熱心に話を聞く姿がみられました。また、お昼からは子ども職業体験を行い、小学生の子どもたちが各生産者ブースで試食販売のお手伝い体験をするなど笑顔溢れるまつりとなりました。

生活クラブが発信する様々な情報が子ども達にもわかりやすく展示され楽しい1日となりました。



CHEER DANCE Mu(ミュー)の皆さん



サツラク職業体験

北海道地域灯油意見交換会が開催されました

基調説明「石油流通業をめぐる最近の取り組みについて」山岡 寛課長補佐より、災害時の給油設備の緊急配備及び、胆振東部地震を踏まえた、SSの自家発電設備の整備状況。緊急配送用ローリーの整備、SS過疎地対策と人手不足対策について、わが国の灯油需給について、年々、灯油の需要は減少しており、暖冬の影響から昨年は前年比87.3%の255万KLであった、「在庫については、十分確保できている」。わが国の灯油価格について、「昨年に比べ7円程度安くなった価格で進行している」「現状は世界経済の減速もあって、原油価格は50~60ドル/バレル台で進行しているが、中東情勢の緊迫化、減産強化の動向で12月初旬に何らかの価格影響が推定される」とのことでした。

意見交換では、灯油価格について、「需要期以外でも価格が高止まり（1昨年は80円台）は、「輸入製造含めた在庫コントロール、無駄な設備の統廃合により、在庫がだぶつく状況が解消された」との元売側の回答、災害時における対応、では自家発電設置SSには、「ロゴマークをつける」消費増税に伴う事項では、キャッシュレス還元事業での対象はエネオスで770箇所、出光350箇所、元売クレジットカード利用で、2%即引

き、高齢者などの年齢制限はしていないとのことでした。階上給油（集合住宅の高層階にすむ高齢者やハンデ在る方のポリタンクやホースを持ち込んでの給油）人手不足や高齢化から拒絶や高い手数料負担を生じている問題について、調査や行政支援の支援策については、行政側の現状追認の域をでない回答でした。地域間格差の是正、福祉灯油についても同様の回答内容でした。

あらためて、階上給油の問題は、厳寒期の北海道で安心して暮らしていく上での重要な問題であり、今後、ますます高齢化や人手不足は進む現状において、行政の支援を含めた解決策を見出すために引き続き要請していきます。



コープ
さっぽろ

全道組合員活動委員交流会報告

コープさっぽろ全道組合員活動委員交流会が、10月31日(木)札幌市北区の札幌エルプラザ3階多目的室にて、100名を越える参加者で行われました。参加したのは、全道11地区に分かれて組合員活動を行っている組合員理事、エリア委員、組合員活動部職員です。

前半の地区活動報告では、各地区から、農業生産者との交流、コープ会を増やす取組、森とのふれあい企画など今年度、特に力を入れて取り組んだ活動が報告されました。

続いて、RCE北海道道央圏協議会 事務局長の有坂美紀さんによる「SDGs 誕生秘話から学ぶ、組織

が生きる方法」の講演が行われました。

後半のワールドカフェ（分散会）では、SDGsの17項目で、日本が遅れている4つのゴール（ジェンダー、消費と生産、気候変動対策、パートナーシップ）について、私たちの活動で取り組んでいること、取り組めそうなことを交流いたしました。

参加者の皆さんは、「持続可能な開発目標」のために、「自分は何ができるか」、「何をするのか」を具体的な行動目標として考える機会となり、有意義な交流会となりました。

